

令和4年度第3回静岡市葵区地域包括支援センター運営部会

1 日時

令和5年2月3日（金）13:30～15:00

2 場所

静岡市民文化会館第1会議室

3 出席者

部会員：部会長 木村綾委員、西尾智美委員、田辺嘉代子委員、堀川敏昭委員
田中博子委員、佐野敏幸委員

（鈴木研一郎委員、海野知子委員は欠席のため、書面で意見を伝達）

行政：葵区高齢介護課 杉原課長、園田係長、大石主査、杉田主任保健師、成田主事
地域包括ケア推進本部 伊東副主幹

4 事務局

葵福祉事務所 高齢介護課 高齢者福祉係
保健福祉長寿局 地域包括ケア推進本部 地域支えあい推進係

5 傍聴者

1人

6 活動及び意見交換

（1）令和4年度活動状況について部会員からの意見、提言

木村部会長： 担当包括 千代田、城北、藁科、美和、安倍、賤機
<千代田地域包括支援センター>

今年度、研修等々されていますが、実際いろいろ研修メニューを考えている中で、実際に受講されている介護職員の方々の意識が決して高くなかったという実情をしっかりと把握されているというのは重要なことだと思います。必要と求められるテーマ、設定だけではなく、参加者の理解を踏まえて研修されているということは非常に素晴らしいことだと思いますので、是非次年度に繋げていただけたらと思います。

<城北地域包括支援センター>

薬局やサポーターズクラブ、あるいは認知症徘徊搜索模擬訓練の中では専門医の医師の方にも協力をいただきながら事業を展開されたということで、包括単独で行うより、住民の方々への繋ぎという意味で、他分野との協働というのが非常に重要だと思いますので、是非繋げて広げていっていただきたいと思いました。

<藁科地域包括支援センター>

見守りネットワーク協力員への協力依頼ということで、実際に包括の方々が26か所の事業所、商店を回って訪問して伝えていらっしゃるということでは非常に手間のかかる関わりを持っていると思います。顔の見える関係性の中で、実際にポイントを伝えて、伝えた先の商店やサポーター員の方々の感触を得ることができると思いますので、非常に効果的な

事業だと思います。これから顔の見える関係性というか、地域のニーズを把握するという意味では非常に手間のかかる事業だと思いますけれども、是非繋げていていただきたいと思いました。

<美和地域包括支援センター>

前回もお伝えしたところかと思いますが、高齢者の権利擁護の意識を高めていこうという中では、実際にそうは言っても関係者の中でも、制度の認識や捉え方について苦手意識があるということをしかりと把握されている。それに伴い関係者だけではなく地域住民にそういった意識がまだまだ低いというところも捉えているので、是非次年度に活かしていただきたい。最初の包括さんもそうですけれども、必要なものをどんどん伝えていくわけではなく、どれくらいそれが理解されているものなのかという実態を正確に捉えていくということも本当に大切なことかと思しますので、その理解度に合わせた研修やアプローチを進めていていただきたいと思いました。

<安倍地域包括支援センター>

良かった点が事業実績のところには書かれていますが、それぞれの関係者が個別に訪問することによって、あの方も来た、この方も来た、同じようなことで来たという訪問が重複するという課題、ニーズを把握されていると思います。そういったことを踏まえて関係者同士ということで保健福祉センター、民生委員、生活支援コーディネーターの訪問が重複しないように、支援体制を整えたというのが非常に素晴らしい点かと思えます。こういったことがまさに包括的支援体制を整えたということに繋がっていくと思います。それぞれが個別に訪問して、それぞれの情報を共有するのではなく、おそらくこれは住民にとっての包括的支援体制と言えるのではないかと思いました。ただそうは言ってもどのエリアにもできることではないと思いますので、こうした積み上げというのを是非大切にしていきたいと思っています。

<賤機地域包括支援センター>

地域包括支援センターの周知をすればするほどおそらく相談件数も上がってきたりする、いいことではあり、いろんなニーズを把握し繋がるということにつながっていきますが、その反面、良かった点に書かれていますが、それに対応する職員のスキルというものが求められてきている。そういった意味では次年度に向けて一人一人の職員のスキルアップ、レベルアップを進めていきたいということも、是非進めていていただきたいです。私も一人の職能として考えると、やはり個々のスキルアップを個人の努力だけに委ねるのではなく、組織として事業所として職員がスキルアップできる体制を進めていていただきたいと思います。あと、ここは特に小中学生に向けた「まるけあ賤機」も配布されていますので、是非実績を共有していただきたいです。

西尾委員： 担当包括 千代田、城北、藁科、美和、安倍、賤機

<千代田地域包括支援センター>

「虐待、困難事例の多い圏域だが、そこに働く介護関係者の意識は決して高くないことが

研修参加者数、職種などから露わになった」とその内容について、しっかり把握されているところは非常にいいことだと思いました。個人的には職種などについてどういったところから意識がわかったのかというのは興味を持ったところではありますが、今後も分析等されているのであれば、続けていただければと思います。

<城北地域包括支援センター>

徘徊している方に対して模擬訓練を行うことは、非常にいい訓練だと思います。特に11月26日の訓練では多くの参加者があったということで、非常に良かったのではないかと思います。是非とも今後も続けていっていただきたいと思ひますし、参加者さんの感想、いろいろな方が指摘しているというのであれば、多方面からの視点での意見等を集めて、次に繋げていただければと思います。

<藁科地域包括支援センター>

6のところに「ボランティアへの負担が課題になってきた」とありますが、具体的にボランティアの方にどのようなことをお願いしているのかというのが気になったところです。ボランティアという形は安定性がないというのはご指摘のとおりなので、ボランティアの方の負担はなるべく軽減したうえで、ボランティアに頼らない形で安定した方法を検討する必要はあると私は考えております。

<美和地域包括支援センター>

6のところで「災害をテーマとした地域支援を検討していく」のところで、今年度災害があったことで包括の重要性が認識されたところなので、「災害をテーマとした地域支援を検討していく」というのは非常にいい事かと思ひます。いろいろなことを検討したうえで共有できればいいのではないかと思っております。

<安倍地域包括支援センター>

3のところで自立支援プラン型個別会議や圏域ケア会議等について、書面開催されたことについて記載されています。書面開催自体は問題なかったと思ひますし、その良さもあると思ひますが、今後コロナ禍が治まるとも考えられないので、ウェブ開催などは検討されていないのかというのは気になったところです。もし検討されていないのであれば、検討したり、書面開催か否かもあるので、方法について検討していただけたらと思ひます。

<賤機地域包括支援センター>

小中学校に向けた活動は非常にいいと思ひました。認知症サポーター養成講座についても実施していただきたいと思います。

田中委員： 担当包括 千代田、城北、藁科、美和、安倍、賤機

<千代田地域包括支援センター>

地域課題の取り組みが丁寧だと思ひました。虐待対応の取り組みにしても、専門職向け、民生委員向け、住民向けと難しい問題をそれぞれに合わせて理解が深められます。運動教室も住民の自主グループ化が進んでいくことでしょう。ただ千代田だけでなくケアマネ不足を訴えているところが何か所かあって、包括の問題ではないと思ひました。

<城北地域包括支援センター>

書面から包括として責任ある業務を熱心に取り組まれているのが感じられました。コロナ禍でもあり、包括スタッフの欠員など、ケアマネからは予防プランの引き受け手がないとの訴えは他の包括からもありましたが、早期解決したい問題だと思います。薬局と共同で講習会を行ったそうですが、民間の力を借りるのも視点がずれなければとてもいいアイデアだと思います。

<藁科地域包括支援センター>

台風15号の被害は浄水場が全国的にも大きく取り上げられましたが、その後山間部に出かけてみると通行止めなどの箇所が多く、皆さん苦勞されているのを感じています。事故のないよう気を付けた訪問活動をお願いいたします。包括の看護職員がまだ決まっていないようです。圏域内の医療職との連携を深めるなど工夫していますが、高齢者の多い地域なので早く解決できるといいと思いました。

<美和地域包括支援センター>

令和4年度はコロナと台風災害対応に追われました。数年前は明日にも来ると言われ、熱心に行われていた防災訓練も密を避けるため行われていません。発災後、地域の高齢者は地域包括を頼りにされ、包括職員も今までの人のつながりをもって活動されました。何もかも包括頼りはないと思いますが、考えてみたいことだと思います。

<安倍地域包括支援センター>

台風15号の台風被害の対応ご苦勞様でした。コロナ対策でも苦勞されていたのに大きな災害に見舞われました。しかし包括と地域住民との今までの信頼関係が評価されたように思います。山間地は介護サービスも限りがあるし、山間地を担うケアマネ確保が課題とありました。無理なく積み重ねて住民に喜ばれる包括を目指してください。

<賤機地域包括支援センター>

コロナ禍で思うように活動できずに頭を悩ませていると思います。その中で地域に溶け込めるよう、地域住民の目線に立つての広報活動ご苦勞様です。素晴らしいと思います。子ども達に知ってもらえるよう漫画などでの配布物、個性的で素晴らしいと思いました。同じ法人の包括や居宅とも共同し熱心に活動されているのが頼もしいと思いました。

佐野委員： 担当包括 千代田、城北、藁科、美和、安倍、賤機

<千代田地域包括支援センター>

成年後見研修について、住民参加の研修会を行っていますが、具体的な内容を教えていただきたいと思います。

千代田包括支援センター：

成年後見制度の研修ということですが、実際には後見というと皆さん取っつきにくいところがありますので、相続や信託、合わせた話をしていただくよう司法書士さんをお願いしました。それなので、身近な話題ということで研修にご参加いただきました。

<城北地域包括支援センター>

包括も権利擁護の窓口という言葉が出てきましたが、具体的にどんな事柄があるのかを知りたいと思います。

<藁科地域包括支援センター>

山間地の地域医療が厳しさを増しているということですが、地域から圏外に出てしまった医療機関があるという意味だと思いますけれども、改善の糸口があるのか、出ていったままになっているのか厳しいままでいくというのは大変なことだと思いますので、その点を知りたいです。

木村部会長：

地域医療の現状としてお話しいただいてもいいですか

藁科地域包括支援センター：

なかなか改善の糸口というのは難しいですけれども、この間自宅ですべてミーティングを開催しまして、医療機関の職員が来てくださり、民生委員さんともお話をし、その中で地域住民の方から「圏外に行ってしまったけれども近隣ではあるので、訪問診療をしてくれるということはないんですか」と投げかけていました。その職員さんの判断でどうこうできるということではないですが、「一旦病院に持ち帰って検討します」というような意見交換はされていました。

木村部会長：

そういった職員の現場の意見交換の中から支援体制づくりに繋がるといいと思います。

<美和地域包括支援センター>

油山や松野に行きましたが、いまだに手つかずのところがあるということで、災害は年々当たり前に発生するという予想は誰しもできることですから、包括という立場で地域支援ということまでやろうとしてもやり切れないんじゃないかという思いがします。

木村部会長：

災害の中で、包括の業務を超えた部分で地域支援というのをかなり踏み込んで頑張っているんじゃないかなと思いますが、そのあたりの実情を教えてくださいませんか。

美和地域包括支援センター：

被災してから戸別訪問をした中で、実際に支援に入ったというケースはなかったですが、時間の経過の中で、被災した地区とそうでない地区があるということがわかりました。地区を選定して、どんなところが防災とか被災したから何か困ったことが地域課題としてあがってくるのか、また他の高齢者で私達が気付かないところに住民の方が課題を持っているのかなど、地域の方に向けてみないとわからないことではありますが、被災したところでは横のつながりがあって助け合えたのかという部分を含めて、一度来年度に向けて地域支援という形で入りたいというのが職員の中で出たところです。ただそこで出た課題によって自宅ですべてミーティングや地域ケア会議につなげていくということが見えてくるといいという段階です。

木村部会長：

地域の中のニーズを踏まえて、その課題が包括だけで解決できるものではなくて、どういった機関、どういった場につなげていけば適切なのかということについては、また次年度ということですので、ぜひその経過も共有して頂ければと思います。

<安倍地域包括支援センター>

災害時に関係機関が個別に訪問することによって高齢者がとまどっているということ、これは山間地ではなくても街中でも同じようなことが起きる場合が多いですが、言い方がまずいのかかもしれませんが、役所の最大の欠陥がこんな所にも出ているのかなど。やはりいざという時には統一した災害対策が行われるようにしていくべきだなと、真剣に改善すべき課題だと思います。

<賤機地域包括支援センター>

小中学校の認知症サポーター養成講座の開催は本当に大事なことだと思います。うちの地域も1回包括さんが中心になってやっていただいて、小学校4年生の福祉事業、認知症の講座というか授業をやったことがあります。これを小学校のみならず中学校、できれば高校までやりたいです。これを地域として呼びかけていきたい課題だと思うものですから養成講座開催というのは大変いいことだなと。また結果的にどうだったのかということをお話していただければ有難いと思います。

田辺委員： 担当包括 城西、安西番町、城東、伝馬町横内、長尾川、服織

<城西地域包括支援センター>

かけこまち七間町のイベントに参加できる地域だと思います。私も安東から月に2回行かせてもらっていますが、やはり出かけることが大事なので、城西さんあたりは行けるのではないかと。フレイルと皆さんおっしゃるけど、それじゃどうすればフレイルにならないのかというお話がこの会でもないと思います。食べること、運動すること、出かけることとか歌を歌うこととかいろんなことがあるんですけども、そういう具体的なお話をここでもしたいと思っています。

<安西番町地域包括支援センター>

「自宅ですっと」のために何が大切か具体的な提案をしていますか。例えば買い物の手配と料理のメニュー等を作成し配布する、ラジオ、テレビの体操番組の手配表を配布するとか、私は提案したいと思います。

<城東地域包括支援センター>

見守り訪問名簿に18名登録とありますが、本人の申し出なのか近隣居住者の情報なのか城東で福祉が何件かあったんですけども、そういった人達は入っていなかったのか、1週間に1回くらい見に行くのか、見守りってどういうことなのか、包括さんだけでは駄目だと思うので、町内会、町内会長だけではなく、副会長がどこも何人かいるかと思っていますので、そういう人も含めて情報を提供したい、個人情報になりますけれども、あの方独居だから心配よねっていう話から見守りの眼を養ってもらいたいと思います。

<伝馬町横内地域包括支援センター>

具体的な認知症予防をしていると思います。食事と運動が大切ですねと評価させてもらっています。

<長尾川地域包括支援センター>

長尾川老人福祉センターに地域の希望者が誰でもいつでも行けるように、車を用意して回せないかと思っています。ちょっと老人福祉センターって離れていますよね。

<服織地域包括支援センター>

圏域内の病院の機能を知ってもらうことは高齢者の自立の意欲を高めると思います。金銭的な紹介もあると、なおいいのではないのでしょうか。例えば今一番心配なのは、私も年金暮らしですが、すごく電気代が上がって医療費が上がって、病院の機能と金銭的な個人が負担する兼ね合いついてというのが一番問題じゃないかと思っています。皆さん現役でいらっしゃるけど、私みたいな年金が10万ちょっとという人間が、とても90何歳、100歳まで生きられないというのがあるし、実際に年寄り早く死ねることでしょうという方があるんです。だからその辺でもっとお年寄りの金銭感覚とかその家族構成とか、そういうことに具体的に入って行ってほしいなと思います。

堀川委員： 担当包括 城西、安西番町、城東、伝馬町横内、長尾川、服織

まずは令和4年度が終了していくということで、各包括さんに、お礼を言いたいと思っています。どれだけの方が救われたことか、どれだけの方が自分らしい暮らしを続けることができているのかというと、本当にこの1年間お礼を申し上げたいと思っています。ありがとうございます。

<城西地域包括支援センター>

チームオレンジ駒形事業の認知度、チーム員の意識がとても高まっているということでもとても素晴らしいと思っています。やはり地域を巻き込むという仕組みがとても大事なんだと、良い事なんだと感じております。

<安西番町地域包括支援センター>

本当に包括さんが忙しい中、定員が満たされていないということは、おそらく地域の方々の要請にも答えたくても答えられないということが出てきてしまうのではないかと思っています。そういう意味では地域の方々から包括さんは、公的機関と見られているのではないかと思っています。しかしながらそこで不足が出ているということは、やはりその責任の所在ということを明確にして、そういったことはないようにして行ってほしいという風に思っています。

<城東地域包括支援センター>

主任ケアマネ連絡会を定期的にやっていただいておりますが、主任ケアマネの教育、育成の部分が多いと思いますし、結果的に私達のような事業所のレベルアップ、またひいては地域の貢献につながると思います。ぜひ継続的な開催、また中身も更に充実した内容にしていたら有難いと思います。

<伝馬町横内地域包括支援センター>

S型デイをはじめ、各種研修会、検討会を数多く実施していただいております。行うにあたって、準備等は非常に大変だとわかるので、大変ご苦勞様でした。このような活動とおして更に地域の方々への認知度が高まることを期待しております。

<長尾川地域包括支援センター>

定員がこの定点の時だけかもしれませんが、不足しているという風になっております。人員の確保ということは大変でしょうけれども、ぜひお願いしたいと思っておりますし、特にその中でも医療と介護の連携ですね、前回の会合でもお話させていただきましたが、特に医師の積極的参加はとても嬉しいし、有難いと思っております。すべてがリンクするというか、すべてが対等であるわけですが、やはりドクターは地域ケアシステムという中ではとても重要なポジションだと思っておりますので、ドクターの積極的参加は本当にありがたいと思っております。

<服織地域包括支援センター>

シニアクラブ等の集会を数多く実施していただき、大変感謝しております。参加者も増えているということですので、更に認知度が上がっている様子が伺えます。これも準備等も大変だと思いますが、ぜひ今後も継続して頂きたいと思っております。

私は静岡市の事業所連絡協議会から出席させてもらっておりますけれども、やはり我々事業所連絡協議会、事業者は、包括さんと連携を密にした協調した形が、とても大事だと思っております。ぜひわれわれ事業者と今後も更なる連携の強化、またご支援をお願いしたいと思っております。

鈴木委員： 担当包括 城西、安西番町、城東、伝馬町横内、長尾川、服織

(欠席のため、事前に書面で提出した意見を事務局より報告)

<城西地域包括支援センター>

地域課題の抽出には、前例も乏しく困難さもあると思いますが、まずは地域包括ケアシステムの中で解決すべき問題を見つけるように尽力してください。

<安西番町地域包括支援センター>

一般介護予防事業(地域の課題の場)の情報提供から一步踏み込んで、診療所からの相談(依頼)事例を包括支援センターから一般介護予防に誘導し、結果を診療所にフィードバックする仕組みを検討してみたいか。

<城東地域包括支援センター>

インフォーマルサービスにはマップに落とし込めないような広義のものも含むと思われるが、どのレベルまでマップに落とし込むのか。内容は連絡先等、そのサービスに直接アプローチできるものとするのか。

<伝馬町横内地域包括支援センター>

S型デイサービスや、運動教室への誘導、参加者の把握管理等は包括で可能か。

<長尾川地域包括支援センター>

地域の医師を積極的に活用してください。

<服織地域包括支援センター>

地域リハビリに積極的に取り組める環境と思います。地域の診療所医師にも地域リハビリのアピールができる場面を作るように心がけてください。

海野委員： 担当包括 城西、安西番町、城東、伝馬町横内、長尾川、服織

(欠席のため、事前に書面で提出した意見を事務局より報告)

<城西地域包括支援センター>

- ・成年後見制度の芽がある方に対するの予測を持ちながらの日々の情報共有、ケース対応を行っていることの一つの成果があったと思います。
- ・医療介護専門職を取り込みながらチームを形成し、連携を図っていることは良いと思います。

<安西番町地域包括支援センター>

- ・ケース共有が毎日実施されていることの成果が出ることを期待します。
- ・職員数が配置定員に足りない中で、全般的に各種の会議を積極的に実施しているようです。

<城東地域包括支援センター>

- ・コロナ禍の中ですが、認知症サポーター養成講座について、WEB開催も可能だと思えますので、是非開催につなげてほしいです。

<伝馬町横内地域包括支援センター>

- ・S型デイの活用を積極的に行っていて、今後も続けてほしいと思います。
- ・困難ケースの色々な対応の在り方を試行錯誤し、そこからより良い方向性を見つけ出してほしいです。

<長尾川地域包括支援センター>

- ・独自の「徘徊認知症高齢者の搜索模擬訓練」の成果を期待します。
- ・「地域づくり話し合い」をもっと活用しましょう。

<服織地域包括支援センター>

- ・警察との連携をさらに進めて、高齢者虐待や消費者被害の予防につなげてほしいと思います。

木村部会長：

全体としては地域の実情や特性が違う中では、今回水害ということで不足の事態もあるなかで、そこをきっかけとして地域との関わり、地域とのニーズ把握もされてきたところだと思います。また事業所内外、それぞれの分析も進めていただいた中で、各包括さん、各事業の分析をされていらっしゃると思います。今日は委員の方からも質問や、もう少し具体的な住民の目線でのアプローチ、取り組みも必要だという御意見もありましたので、是非次年度の事業につなげていただければと思います。

(2) 部会テーマ「地域におけるネットワークの活用」について意見交換

1)地域におけるネットワークの活用状況について(特徴的な取り組みなど)

木村部会長：

葵区の中で重複しているのは、学校や商店、企業、そういった福祉関係ではない分野の地域資源をうまく活用して、関わって、働きかけをしていって仕組みづくりというか支援体制を作れているということについて、いくつかの御意見をいただいているかと思います。

あと佐野委員から社会事業への若い方への参画、取り組みが見られているということですが、何かこの点で補足等ございますか。

佐野委員：

私の地域では安西番町地域包括支援センター主導で、福祉懇談会というのを2回、行わせていただきました。ネットワークという意味の幅は広いですが、地域住民と包括、また社協というつながりという認識の中で、社会福祉事業というのは年寄りの専売特許のような感じを私自身も昔は思っていました、特に一番欠けているのは若い人の社会福祉事業への参加です。新しい発想が生まれるという意味で、福祉懇談会を契機として若い人に積極的に声をかけていく。実際、福祉懇談会をやってみると、若い人もかなり積極的な意見、提言が出てくるんですね。今後の社会福祉に目を向けていただくという取り組みを一番町地区では安西番町さんが本当に積極的にやっていただいていたものですから、それに答えるという意味でもしっかりやっていこうと。これをテーマとして今後も若い人の参加によって新しい発想や道が開けていくという確信をもち、今後もやっていきたいと思えます。

木村部会長：

一番町地区で若い方々を巻き込むような取り組みということですね。安西番町さんは何か補足はありますか。

安西番町地域包括支援センター：

先ほど佐野委員さんからご報告いただいた若い方の参加ということで、一番町地区の皆さんで福祉懇談会を今年度2回、開催されました。私達包括支援センターで働いていると地域課題の抽出ということについては、自分達で受けている総合相談の傾向であったり、介護予防支援の傾向であったり、それから地域ケア会議、個別であれ地域であれ、地域ケア会議から課題を抽出するというのが日常的に求められているところかと思えます。今回一番町地区、佐野委員さんのところはそうではなくて、一番町地区に住んでおられる方自ら出てきた地域課題、ここが私達が日頃地域課題の抽出と言っているところと大きく変わるようになります。今会長さんがおっしゃたような、若い方の参加も必要だよということも一番町地区から出た地域課題です。改めて地域の皆さんの声からあがった地域課題へ取り組みを今年度させていただけたということは私達にとっても非常に新しい視点だったし、本来であれば、住んでいる方々のお声から出てくるものもとても大事な地域課題なんだというような認識を改めて受けさせていただきましたので、非常に有意義な活動を示させていただきました。若い方を入れていかないと町が活性化していかない。発展化していかない

というのがありまして、若い世代の方が学生さんから一番働き盛りの方も、自分達の町の未来をみんながそれぞれの立場で考えていくと、佐野委員さんがおっしゃったように思わぬ意見、いつも会議では聞けないような意見が聞ける、やはり町の強みであり、大事な取り組みなんだなと思いました。

木村部会長：

専門職や関係者の視点だけではなく、住んでいる方の意見を取り入れて事業と一緒に協働されているというところが、特徴というか取り組みなのかなと思います。

田辺委員：

社会福祉という観点だと、どうしてもお年寄りとか子ども相手ということになりますけれど、私、防犯委員をやっているものですから、住民の方が社会活動をするっていう中の一点としてお年寄りのことも扱ってほしいと思います。防犯、防火っていうことでは、みんなが例えばごみネットの出し方がおかしい時に、皆さんがちょっと直してあげるくらい、若い人達にも持ってほしいと思います。そういう優しさとか気遣いのなかで、お年寄りに対しても活動できるのではないかと思います。

木村部会長：

何か特別なことをするというのではなくて、日頃の生活の中から関わりを持っていくという、そういった地域を作っていくということも非常に大切なことだと思います。

田中委員：

私は介護者ぎずなの会というところで、介護している人達を励ましてあげたいということで、月1回話し合いの場を持って、いろんな話をするんですけども、最近ヤングケアラーのことが問題になっていると思います。ヤングケアラーへの働きをどうしたらいいんだろうということ、自分達で作っている広報誌を一番近い学校に持って行って関心のある人におしゃべり会にでも来てもらってという話をしていますが、なかなか行動に移すということがとても難しく悩んでいます。最近静大の学生さんがぎずなの会ってどんな話し合いをしているのか卒論に使いたいということで、ここ半年くらい一年近くになるのかな、聞いて勉強してくださっていますが、若い人の力ってすごいなって、エネルギーをもらいますしね、パソコンのことも携帯のことも若い人がいるとパパッとやってくれるんですけど、何かどこかで交流ができれば嬉しいなと思っております。

木村部会長：

今後の課題、今後に向けた取り組みの御意見にもつながってくるかと思いますが、地域の中ではこういった活動をやりたい、つながりたい、でも困っているよというところもあるので、うまく包括さんの方で仲介や支援をしていただければいいのかなと思います。

堀川委員の方から、新たなネットワークづくりということでもありますか。

堀川委員：

城西包括さんのチームオレンジというような地域を巻き込んだ形が、そこが一番のキーポイントかなと思っています。やはりいろんなところを巻き込んでやっていくということ、私もそうですけれども、最近核家族になってきて、おじいちゃんおばあちゃんがない家庭

が多くなっていて、福祉、介護って、とても遠い存在なんですね。身近な存在ではなくて、その時点にならないと気付かない、触れることができない世界なんですね。私も親父とかお袋とかいますけれども、そういう時に初めて触れるっていいですか、そういう形になるんですね。そこまでは福祉、介護の世界っていうのは本当に遠い存在でニュース、テレビでも聞いていても、全くすり抜けていってしまうという状況です。じゃあそれをどうやって若い方にもアンテナを張ることができる仕組みを作るかという、それはとても大変難しくて、答えが出ないですが、何らかの形でやっていく。また話が違いますが、私ども事業所連絡協議会で、私も事業で訪問介護をやっていますが、ヘルパーさん、いわゆる介護職は静岡大学とか学校を卒業する方々にとっては、とても遠い存在なんですね。学生さん達の実地研修もあります、まずは施設からという感じになってもとても遠い存在なので、何とか身近に感じてもらいたいと以前にアプローチをしたこともあります、なかなかできなかったです。

また福祉介護というのはとても広くてなかなか難しいですが、いずれにしても若い方達にそういったことを啓蒙する機会があればいいという思いは持っております。

木村部会長：

総じてこの部分で言うと、最初の方でも言っていたとおり、学校や商店など地域の様々な資源を活用して、福祉関係者だけではなく、多業種を巻き込んだネットワーク、支援体制をやっているということだったり、また地域住民を巻き込んで、関係者だけではなくて地域も巻き込んだ新たなネットワーク、チームづくりをしていくということも一つの特徴ではあるかと思えます。その中で若い方をどう巻き込んでいくかという課題を共通の認識として持っている。おそらく若い人達、今困っていないですし、いずれ来ると言っても、それも30年、40年後先のこともかもしれないということで、今困っていなければなかなか関心を持たず、関心のない方はこういった地域づくりというか、ネットワークづくりに協力してくれる意識もないだろうと思えます。そういったところをうまく地域の中で共有していて、ある地域の包括では小学校中学校から身近な問題として捉えていけるような、そういう地域づくりを作っているということも葵区の包括の成果というか取り組みの実績、実践かなと思えます。

2) 今後に向けた課題・意見等

木村部会長：

今回、不測の事態、水害の被害があったということでは、災害時に向けた緊急時の対応、包括としての対応についてマニュアル的なものを作っていく必要があると委員のいくつかの意見としてあがっていると思えます。あとは予防プランを作成するケアマネさんがいないという実情について田中委員から意見があったかと思えますが、補足で何かご意見をいただけますか。

田中委員：

予防プランを立てるのは三職種の中の看護師の仕事かと思えますが、それだけでは手が足りないというか、やはり予防プランの視点を持ったケアマネを育てたいというのが、ある

と思います。問題が生じて、だからこういうふうなプランを立てましたではなくて、予測性を持ってその人がどういうふうに生きていきたいのかということをつえながらプランを立ててもらう上ではやはり予防プランって大事かなって思いました。

木村部会長：

現状の必要な支援について、プランを立てていくというのではなくて、この方の病状だったり身体的なこと、あるいは社会的な生活、家族の体制だったりとか、住まいの状態によってはこの方この先どうなるんだろうという予測の視点も入れたプラン作成が必要じゃないかということですね。

先ほどの実情と重複しているかと思いますが、佐野委員からはやはり包括の事業を地域の方々に知っていただくという意味では関係者と高齢者と当事者だけではなくて、より若い人達、学生とかに知ってもらうような取り組みが必要だという意見をいただいているかと思いますが。佐野委員さん、よろしいですか。

佐野委員：

そこに一番力を入れていかないと煮詰まっちゃうんじゃないかな。やはり若い人に包括全体の事業を知ってほしいし、今自分のまわりに何にもないから反対だというのではなくて、それこそ将来のことを一緒に考えていくという気運を醸成していきたいというのが、私の考え方ですから。そういうふうにして包括という窓口がいかに社会福祉の中で重要な役割をしているということを知ってもらえば、包括さん自体は仕事は忙しくなる一方かもしれないけど、困ったことがあったらすぐ包括が頭に浮かぶくらいまでやっていくことが、地域が安泰という心が安定してくる一つの基にもなるというふうにも考えます。

木村部会長：

おそらく包括だけで全て解決できる問題ではないというところもあるので、ぜひ先ほどのネットワークを活用しながら、包括がキャッチしたニーズをつなげていただいて、一緒に協働していく方法を考えていくしかないと思いますけれども、無関心層をどう捉えていくか巻き込んでいくかというのはすごく大きな課題ですのでそういった意味では小中学校への働きかけをしてそれがどうなっていくのかということのも期待されていくことかと思えます。

田中委員：

介護保険ができるまでは地域の困りごととも全て保健福祉センターを頼っていた気がするんですけども包括ができて、包括は高齢者のよろず相談所かと思いますが、包括の方のお仕事との線引きはどのようにしているのか教えてほしいと思いました。

木村部会長：

全体としての見解ということでは、これは行政にお返しした方がよろしいですか。

田中委員：

行政というよりは、普段仕事をしていて、これは自分達の仕事なのかなとか、協働して解決を考えていくとか、そういう事例があったら教えてほしいと思ったんですけども。

木村部会長：

包括さんと保健福祉センターのことで、こういったところが実情としてあるということ

が言えるところは、何かありますか。

賤機地域包括支援センター：

本当につい最近のことですが、民生委員さんと自治会長さんが55歳の一人暮らしの方が最近見かけなくなると、相談にお見えになりました。数か月前にご近所にお水をくださいともらいに来て、それ以降あまり見ていないという話で、心配だからとってお見えになったケースがありました。その時は警察の方に連絡をと、お願いをしました。続いてすぐに63歳の男性の相談が地域の住民の方、友人の方からありまして、遠くに住む姪御さんに連絡を取って、やはり警察に連絡をして、包括も中に入りました。今入院をされていますが、その時、若いということもあって、保健センターさんも関わりました。やはり地域住民の方から連絡があったり、民生委員さん町内会長さんから連絡があった時に、うちは担当ではありませんからとはなかなか言えない状況にあります。ちょうどうちの包括支援センターと保健センターが道路を隔ててすぐ前にあり、連携がはかりやすいものですから、そういう時はどちらが担当というのではなく、協力し合って見守りをしていきたいと思います。

木村部会長：

うまくできている反面なかなか難しいケースもおそらくあると思いますし、包括がまずは何でも相談してください、窓口ですよと言った反面、パンクしてしまったりは機能しなくなってしまうので、そういった意味では包括が受けた業務というものを地域の中で協働し合うような支援体制という仕組みを作っていく必要があるんだろうと思います。

田中委員：

今お話の出た55歳と63歳の方も独居ということですが、私も独居なんですけど、地域とか担当しているところに独居で、せめて70歳以上の方がどのくらい、どこにいるのかっていうのを皆さん掴んでいらっしゃるのかなと思って。生きてても死んでも自己責任みたいな感じもありますが、一人の人ってなお、男性なんて特に困ったよって話しかけられない。私のところでも外の水道からお水を盗んでいくっていう人がいるんですよ。水道代が高いから、それくらい困窮している方もあるし、いろんな方がいらっしゃるのでね。ただ包括さんにそこまでの責任もって、包括さんのお金ってどこから出てどれだけの運営費で皆さんやっけていらっしゃるのか、逆に心配になっているんですけどもね。包括だけの問題ではなくて、政治的な改革から包括として何か国、市町村に意見を言う態度でないと何でも包括さんっていうわけにもいかないかなと思います。10年20年後に独居の人がどれだけの人口になるのか、皆さん予想していらっしゃるのかなって心配しています。

木村部会長：

実際に行政の方でも1年に1回、65歳以上の実態把握はされていらっしゃるんですよね。それを包括の方にも共有されていますか。

事務局：

毎年1回、高齢者の実態調査を民生委員さんに協力していただきながら行ってまして、以前は65歳以上だったんですけども、現在75歳以上独居等の対象の方に行っています。

て、民生委員さんが訪問して頂いた中で、支援が必要な方は民生委員さんから包括支援センターに連絡をして支援をお願いするということを行っていますので、連絡はいつているかと思えます。

木村部会長：

ただいるいないということだけではなくて、どんな生活をされているのかということまでは具体的にはわからないので、そういったところを地域の中で繋がりの中で把握していく、積み重ねていくということも必要なのかなと思えます。

3) 次年度の取り組み・地域包括支援センターへの期待等について

木村部会長：

今年度、水害があったという意味では非常時の事態に備えたマニュアル作りというのは、個々の包括でやれるのか、あるいは母体の法人の中であるものを運用されていくのか、そのあたりについてはまだまだの状態なのかなと思えますけれども。そういったご意見はいくつかいただいています、いかがでしょうか。それ以外では鈴木委員から地域の通いの場についての御意見もあったと思えます。

西尾委員：

ここにも記載させていただきましたが、今年度台風15号があり、その中で包括の方々がいちいち努力をされているところがありますので、そういったところを今年の良かった点、それぞれで頑張っていた点もあると思えますので、総括した形にする。災害もいつ起こるかかわからないところもありますので、それにきっちり備えておくということが、早急に必要なんじゃないかと思えました。それに関しては個々の包括で頑張るといよりも、全体的な話で意志共通した形ものを早めに共有できるような形がいいのではないかなというふうに考えております。

木村部会長：

実際に対応せざるを得ないという中で、いろいろご苦労されてきたと思えます。包括としてしきれなかった部分とか課題とか、やっぱりこういった支援体制があった方が良かったのにとかいうものもあろうかと思えますので、個々の実践の、こんなことを対応したよ、ではなくて、何かしら整理されたものも必要だと思います。それがマニュアル作りにつながるのか、また包括それぞれの置かれている状況によっても違うと思えますので、そのへんは必要かなと思えます。

佐野委員：

私はこの(3)については、包括さんと地域の自治体が常に話し合いを重ねていく関係性を築いていけば、更に力強い事業になると思えます。私も自治会長をやっているんですが、やはり地域の事はいわゆる地域住民が一番よく知っているんですよね。口には出さないかもしれないですけども、隣近所のこと、本当はよく知っているんですよ。一人一人と話をというのはできないとしても、自治体の役員と定期的に意識的に話し合いをするってことの中で見えてくるものは、沢山あるんじゃないかと。ですからとにかく地域の事を一番知

っているのは地域の住民だという、これをしっかり捉えていただいて、話し合いを常に重ねていけば、包括事業というものも、もっともっと中身の濃い、力強い事業になるというふうに思っています。

木村部会長：

災害者の対応の中で、直接包括さんが自治会との関係の中で支援をしていたということはいくつも聞かれましたので、実際そういった関係性はあるかと思いますが、改めて、これまでって包括は地域の資源とか他の団体とつながって連携も進めてきましたが、今一度地元的地縁組織、自治会の関係性ということも改めて確認をお願いしたいということですね。いただいたご意見を踏まえて、今後、3月になりますけれども、地域包括支援センター運営協議会の方で、葵区の部会の意見として報告をしていきたいと思っています。